



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/9 (月)				成人の日			
1/10 (火)	+ 2,700	▲ 24,800	▲ 22,100	国庫短期証券発行・償還 (6M)	国債補完供給 CP等買入 + 25,700 ▲ 100	共通担保オペ + 20,000	日：東京CPI (前年比、12月)
1/11 (水)	+ 3,000	▲ 5,000	▲ 2,000	国庫短期証券発行・償還 (3M)	共通担保 (全) ▲ 4,660		日：コール市場残高 (12月)
1/12 (木)	+ 2,000	▲ 16,000	▲ 14,000	国債発行 (30年)			日：日銀地域経済報告 (さくらレポート、1月) 米：新規失業保険申請件数 (7日終了週) 米：CPI (12月)
1/13 (金)	+ 2,000	+ 1,000	+ 3,000				日：日米首脳会談 (ホワイトハウス)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初501兆7,400億円から始まった。週初から連続して行われた2年物の共通担保資金供給オペや国債買い入れオペを主因に日銀当座預金残高は増加したが、1月6日の法人税揚げによって同残高は減少し500兆6,600億円を越えた。無担保コールON物は週初、大手行の調達ニーズ減退を主因に出合の水準は低下し、同加重平均金利は▲0.038%から始まった。週末には、積み期終盤かつ4日積み要因により調達を積極化させた大手行、地銀業態によって出合の水準は急上昇し、無担保コールON物金利は▲0.015%となった。

ターム物は、2W物を中心に▲0.050%~▲0.035%のレンジで出合が見られた。

日本銀行は1月4日から1月6日まで連日、2年物の共通担保資金供給オペを行った。

来週の主な予定は、国内では1月12日に日銀地域経済報告 (さくらレポート、1月) の公表がある。海外では1月12日に米CPI (12月)、米新規失業保険申請件数の公表が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	0.010 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<レポ>

足許GC取引は週初▲0.095%近辺から始まり、週を通して▲0.100%~▲0.09%の狭いレンジで取引された。SC取引は2年435~443回債、5年146~154回債、10年350~369回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額 (約3,000億円) を上回った。発行市場は、期明けによる発行再開により、鉄鋼や石油製品、卸売業等の幅広い業態で大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は12月末時点の24兆9,973億円から5日時点で26兆8,076億円と大幅に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積みあがっている銘柄等を中心にややレートの上昇も見られた。来週の週間償還額は、約3,000億円となっている。発行市場は引き続き、事業法人による期明けの発行再開により発行超となることを見込まれる。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。11日に、CP等買入オペが4,000億円程度オファーされる予定となっている。

<TDB>

1月5日の3M (1129回債) の入札は、最高落札利回り△0.1036% (前回債△0.1321%)、平均落札利回り△0.1206% (前回債△0.1790%)、1月6日の6M (1130回債) の入札は、最高落札利回り△0.0685% (前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1007% (前回債△0.1322%)
来週は1月10日に3M、1月13日に3Mの入札が予定されている。